

平成15年度 地域活性化施策推進費調査

平成15年度 水源の保全に向けた水文化と森林文化の融合
による地域資源を活用した水源地域活性化調査

－ 水文化を活用した地域活性化に関する調査 －

報 告 書

平成 16 年 3 月

国土交通省土地・水資源局
水資源部水源地域対策課



はじめに

本報告書は、平成15年度、国土交通省土地・水資源局水源地域対策課が財団法人日本システム開発研究所に委託した「水源の保全に向けた水文化と森林文化の融合による地域資源を活かした水源地域活性化調査」の結果を取りまとめたものである。なお、本調査は農林水産省と国土交通省が連携して行った調査であり、本報告書は、国土交通省の調査を取りまとめたものである。

近年、わが国の水源地域においては、過疎化・高齢化の進行や林業の不振などが深刻化し、林業や里山利用のように、これまで水源地域の住民の産業活動・日常生活等を通じて行われていた水源地域の保全に支障をきたしはじめており、健全な水循環系を構築し良質な水を安定的に確保するには、水源地域の適切な管理と森林機能の維持増進に繋がる新たな取組みが必要となってきた。

このためには、水源地域のみならず下流地域も含めこれらの地域住民を森林整備や水質の保全活動などの担い手として確保し、併せて、水源の保全活動を促すことが有効であるが、水源地域を活性化することにより、水源地域住民の生活の安定化や交流人口の増大を図ることが前提となっている。

以上のようなことから、本調査は、全国の水源地域に共通して豊富に存在する水と森林及びそこからの産物などから形成されてきた「水文化」と「森林文化」を有機的に結びつけることにより、両面から地域資源の掘起こしを行い、地域資源を活用した地場産業の発展や住民同士の交流、さらに、それらの活動の担い手の確保を通じて水源地域の保全が促されるような仕組みや手法を明らかにすることを目的として行ったものである。

具体的には、水源地域をはじめ水文化を活用し地域活性化に取り組む地域を事例としてアンケート調査を行い、これまで行われてきた取り組みや住民参加などによる水源の保全活動などについて情報収集を行った。また、これら事例調査実施市町村の中から既に水文化活用による地域づくりで成果を上げている地域やこれから取り組みはじめようとしている地域をモデルケースとして取り上げ、それぞれの活動内容や取り組みにおける問題点・課題を明らかにし、これらの事例調査にもとづき今後の水源地域における水文化及び森林文化の融合による地域活性化の基本的な考え方やモデル手法を明らかにしている。

本調査の実施にあたっては、学識経験者及び有識者を講師に迎えるとともに、モデル調査と意見交換会において多くの見識と貴重なご意見をいただいた。さらにアンケート調査などにおいて多くの方々のご協力を得た。ここに感謝の意を表する次第である。

平成16年3月

国土交通省土地・水資源局水資源部
水源地域対策課

目 次

はじめに

序 章 調査の目的と概要

1. 調査の目的と水文化の考え方	3
(1) 調査の背景と目的	3
(2) 水文化について	4
2. 調査の概要	7
(1) 調査内容	7
(2) 調査フロー	8
(3) 調査方法	9

第1章 水文化活用による地域活性化事例調査

1. アンケート調査の目的及び概要	13
(1) 調査の目的	13
(2) 調査概要	13
(3) 水の郷百選について	14
2. アンケート調査結果の概要	21
(1) 水資源を活用した取り組みや活動について	21
(2) 水の郷百選について	21
3. 単純集計	22
(1) 取り組みの変化の有無	22
(2) 対象地・活動拠点の変化の有無	22
(3) 活動主体	23
(4) 取り組み・活動の種類	23
(5) 活動拠点	24
(6) 活動における問題点・課題	25
(7) 活動継続で苦勞した点	28
(8) 活動継続のための工夫	29
(9) 水の郷百選認定によるプラス効果	31
(10) 水の郷百選認定によるプラス効果の影響	32
(11) 水の郷百選認定によるマイナス効果の有無	35
(12) 水の郷百選認定地域を主体とする新たなネットワークへの参加意向	35
(13) 自由回答	36

第2章 モデル事例調査結果報告

1. モデル事例調査の概要	41
(1) 調査の目的	41
(2) 調査方法	41
(3) 調査スキーム	41
(4) モデル地域の概要	42
2. 調査結果の概要	44
(1) モデル事例調査① 福島県只見町	44
(2) モデル事例調査② 京都府美山町	48
3. モデル事例調査結果報告① 福島県只見町	51
(1) 只見町の概要	51
(2) 只見町の水文化	59
(3) 実施活動の具体的内容	61
(4) 水文化活用による地域活性化の方向	64

4. モデル事例調査結果報告② 京都府美山町	69
(1) 美山町の概要	69
(2) 美山町の水文化	80
(3) 実施活動の具体的内容	82
(4) 水文化活用による地域活性化の方向	86
第3章 水文化と森林文化の融合による地域活性化のあり方の検討	
1. 検討方法	91
(1) 意見交換会の実施概要	91
(2) 意見交換会の検討内容	91
2. 水文化と森林文化の融合の考え方	92
(1) 森林文化の考え方と特徴	92
(2) 水文化における意識変化の問題と課題	93
(3) 水文化と森林文化の融合による「森水文化」の基本的考え方	95
3. 「森水文化」の創造に向けて	97
(1) 水と森をめぐる歴史・文化的価値の再発見 ～森水文化の創造へ～	97
(2) 水・森林環境の保全を通じた地域づくり	97
(3) 地域の風土に根ざした、個性豊かな水と森と人との新しいかかわり方 ～新たなツーリズムへの転換～	98

序章 調査の目的と概要

1. 調査の目的と水文化の考え方

(1) 調査の背景と目的

わが国において健全な水循環系の構築を図り、良質な水の安定的確保を行うためには、水供給の要である水源地域を抱えている水源地域の役割は非常に重要である。

一方、近年、水源地域においては、過疎化・高齢化の進行や林業の不振などが生じており、水源地域の住民の生活活動等を通じて行われていた水源の保全が困難となることが懸念されている。

このため、水源地域における地域資源を有効に活用し、衰退しつつある水源地域の再起を促すとともに自立する力を強めることにより水源地域を活性化させ、住民の生活活動等を通じた水源の保全を図る必要が生じてきている。

しかしながら、各地の水源地域では地域活性化に活用するための地域資源に恵まれていないところも多く、また、水源の保全活動などの担い手である地域住民の確保が十分とはいえない状況にあるなど様々な問題点や課題を抱えている。

本調査は以上のような背景をふまえ、全国の水源地域に共通して豊富に存在する水と森林及びその産物に着目し、地域の風土に根ざした個性豊かな水と人との関わりである「水文化」や森林の恩恵を末永く暮らしに活かしていくための方法やしくみづくりである「森林文化」について、これらを有機的に結びつけることにより新たな地域資源として再発見するための方策や地域の特性を活かした地域資源の総合的活用の考え方に明らかにし、水源地域の活性化に資することを目的として行ったものである。

本報告書の第1章では、水資源利活用による地域活性化の事例調査として行ったアンケート調査の分析を通じて水資源活用に関わる取り組みの推移や活動における問題点・課題及び今後の意向の把握を行った。

第2章では、事例調査対象から選定した地域を対象としたモデル調査を通じて水文化活用による地域活性化における問題点・課題の抽出を行った。

第3章では、第2章の実態把握の結果や課題等を受け、水文化と森林文化の融合による地域活性化の考え方を明らかにするため農林水産省と合同で意見交換会を実施し、この結果にもとづき水文化と森林文化を地域資源とする地域活性化の手法について検討を行った。

(2) 水文化について

1) 水文化の定義について

平成 12 年当時の国土庁長官官房水資源部が取りまとめた「地域を映す水文化・水が導く地域の未来（水文化の保存再生を通じた水源地域の活性化方策（指針）」において、水文化は以下のように定義されている。

本調査で扱う「水文化」は概ねこの定義に従うこととする。

水文化とは「地域の人々が水を上手に、活用し、また水を制する中で生み出されてきた有形、無形の文化や伝統」です。

水にかかわる祭事・信仰、水車や堰などの伝統施設や工法、水を活用した伝統工芸などに加え、水を中心として形成された特徴的な生活スタイル・生活様式なども「水文化」ととらえることとします。

出典：「地域を映す水文化・水が導く地域の未来（水文化の保存再生を通じた水源地域の活性化方策（指針）」
平成 12 年 国土庁長官官房水資源部

2) 水文化の考え方

これまで水文化がどのように形成され、近年どのような問題が生じているのか、また、水文化は今日の社会の中でどのような意味を持つのか、など水文化の基本的な位置づけや考え方について整理すると以下のとおりである。

- ・ 水文化は、人々が水を上手に活用し、また、水を制する中で、生み出されてきた有形無形の文化や伝統であり、各地域でそれぞれ個性的な水文化を有している。
- ・ 水文化には、祭事や信仰、伝統工芸、水車や堰等の施設に加え、水を中心とした生活パターンや生活様式、さらには水周辺を活用し人々が憩い・楽しむための施設や行事も水文化として捉えることができる。
- ・ これらの水文化の中には、戦後、急激な経済成長の陰で、都市部を除く多くの地域では過疎化や高齢化が進み、地域の姿が大きく変貌してしまった。
水そのものも流量が減り、汚れが目立つようになった。さらに、河川の洪水対策を最優先にして整備が進められたことで、水とふれあう場や機会は減り、農業・林業・漁業など水と深く関係した産業が衰退するなど地域と水とのかかわりも大きく変化していった。
- ・ 現在、全国各地の個性豊かな「水文化」はその存立基盤を失い、衰退の方向に向かっているようである。しかし、これら「水文化」の回復・育成・新生を図り、水とのふれあいの復活のきっかけをつくり、水源地域の活性化や水源地域への理解の増進につなげていく方策の立案とその活用が期待される場所である。
具体的には、観光等の活性化資源として、また、都市部住民の水や自然の癒し効果への関心の高まりなどを背景とした上下流交流の促進などが考えられる。

- ・ これからの「水文化」には、地域固有の水をめぐる歴史や文化の再発見、あるいは、水環境の保全を通じた地域づくりといった、「地域の風土に根ざした個性豊かな水と人とのかかわりの再構築」という新たな視点が求められる。

3) 水文化の種類

国土庁（平成12年）の指針によると、水文化の種類は表1のとおりである。

表1 水文化の種類

大項目	水文化の種類		備考
林業	木材流送(筏等)	有形	伐り出し木材の運搬、筏流し
	炭焼き	有形	
農業	棚田	有形	
	地場産品	有形	有名産品など
輸送	川舟	有形	地域ごとに呼称が異なることが特徴
	廻船業等	無形	
漁業	伝統漁法	無形	
	養殖業	無形	
伝統工芸	手漉き和紙	無形	
	染め物	無形	
	めのう細工	無形	
	その他の伝統工芸	無形	
観光業	観光船	有形	
	釣り場	有形	
その他産業	醸造業	無形	
	製鉄業	無形	水流を利用した比重選鉱など
洗い場	洗い場	有形	
水車	水車	有形	水車の利用を含む
民話・伝承	かっぱ伝説	無形	
	弘法伝説	無形	
	滝伝説	無形	
	雨乞い伝説	無形	
	その他の民話・伝説	無形	
祭事・信仰	雨乞い	無形	
	五穀豊穡	無形	
	大漁祈願	無形	
	水恩感謝	無形	
	滝信仰	無形	
	神の交流	無形	
	禊ぎ・鎮魂	無形	
	厄除け	無形	
	海神・竜神	無形	
	精霊流し	無形	
その他の祭事・信仰	無形		
治水・利水・取水施設	水制の歴史	有形	輪中堤防、水屋、水防工法など
	水不足対策の智慧	無形	水配分の慣習など
	文化財(産業遺産)	有形	石造ダム、古堰、古水道など
	地域の歴史の象徴	無形	名士の名を冠した水道など
水資源	湧水	無形	
	ため池	有形	
	その他水資源	有形	
イベント	水にちなんだイベント	有形	湖上祭など
組織	管理組合	無形	水管理組合、水守、水当番制など
その他	水売り	無形	水販売のこと
	水にちなんだ地名	無形	
	水にちなんだ唄等	無形	

出典：「地域を映す水文化・水が導く地域の未来（水文化の保存再生を通じた水源地域の活性化方策（指針）」平成12年 国土庁長官官房水資源部

また、近年の新たな水文化の兆しとして、清流を活用したカヌー・ラフティング、ダム湖を活用したウィンドサーフィン・レガッタ、安全な川遊び等河川に親しめる水辺プラザ、水源地としての「美」をアピールする美術館等がある。

<参考>

①水文化の形成

わが国では、それぞれの地域が、水と深いかかわりを持っている。古来、川や湖は、地域の境界であり、人・物質・情報の行き交う路であった。また、粉引き水車、川魚、木材流送など、水は生産活動とも密接なかかわりを持っていた。また、用水路から水を引き込んだ洗い場は、生活の中心となっていたという。このように水は地域に恵みを与える存在である一方、洪水や濁水等の災いをもたらす存在でもあった。各地の龍神さまや水神様を祀る祠や祭事、民話や伝承がそれを今に伝えている。

各地域が持つ水とのかかわりは、長い歳月の中で、「水文化」を醸成していった。

地域と水とのかかわりが地域独自のものであることから、「水文化」は唯一無二の個性を持ったものである。これが「水文明」ではなく、「水文化」といわれるゆえんである。

②水文化の衰退

ところが戦後、急激な経済成長の陰で、都市部を除く多くの地域では過疎化や高齢化が進み、地域の姿が大きく変貌してしまった。水そのものも流量が減り、汚れが目立つようになった。さらに、河川の洪水対策を最優先にして整備が進められたことで、水と触れあう場や機会は減り、農業・林業・漁業など水と深く関係した産業が衰退するなど地域と水とのかかわりも大きく変化していった。今、全国各地の個性豊かな「水文化」は、その存立基盤を失い、衰退の方向に向かっているようである。

③水文化の持つ意味

「水文化」は、その地域が持つ自然環境や社会条件を端的に映し出す「鏡」となり、また、長い年月の中で磨きぬかれた「生活の知恵」を内蔵しているものである。

地域自身を映し出す鏡を失い、地域固有の生活の知恵を忘れてしまった地域とは、個性の乏しい魅力に欠ける地域ともいえる。しかし、日常的に「水文化」に触れ「水文化」、と対話することができれば、本来的な自分達（地域社会）の姿や、忘れかけていた生活の知恵を再確認することができると考えられる。

したがって、「水文化」の保存・再生とは、このように地域の人々が、日常的に「水文化」に触れる機会を生み、自ら考える契機をつくり出すことである。

④健全な水循環系の再構築と新しい水文化の創造

今、我々が触れることのできるほとんどの「水文化」は、古来より地域と水とのかかわりの中から生まれてきたものである。しかし、昔と今では地域の姿や水の様子が大きく変貌し、これにともなって地域と水とのかかわりも大きく変化している。こうした中で、昔ながらの「水文化」が、現代社会にそぐわなくなりつつあることも否めない。

「水文化」は、一朝一夕に形成されるものではないが、今後、現代を生きるわたしたちの使命として、新しい「水文化」を形成していくことも重要である。

今後、わたしたちは、これからますます必要となる水道の整備や、農業用水路の整備、河川の整備などに際しても、新しい「水文化」の形成、という視点を忘れずに、地域にあるべき「水」を考え、また「水とのかかわり」を大切に育てていくことが、新しい「水文化」の形成に、大いに役立つと考えられる。

出典：「地域を映す水文化・水が導く地域の未来（水文化の保存再生を通じた水源地域の活性化方策（指針）」
平成12年 国土庁長官官房水資源部

2. 調査の概要

(1) 調査内容

本調査は、水源地域における水文化の活用実態の把握と地域づくりへの展開方策の検討、そして水文化と森林文化の融合による地域振興のあり方について検討する3つの調査から成り、各調査を通じて総合的な水源地域の活性化のあり方を検討したものである。

各調査内容については、以下のとおりである。

1) 水文化活用による地域活性化事例調査（水の郷百選指定市町村アンケート調査）

① 調査対象：水の郷百選指定市町村

② 調査方法及び内容

水文化を地域資源として活性化に取り組んでいる事例として、水の郷百選認定市町村（115市町村）を対象とした、水文化を地域資源として地域振興に取り組みなどについてのアンケート調査を実施した。

【調査内容】

- i. 水の郷百選地域の現在の活動状況の把握及び問題点・課題の抽出。
- ii. 調査結果から「水文化と森林文化の融合による新たな地域資源の創出」という観点より取り組み事例について取りまとめた。

2) モデル地域における水文化等を活用した活性化方策の検討調査

① 調査対象：福島県只見町、京都府美山町

② 調査方法及び内容

事例調査を実施した地域の中からモデル地域を選定し、地域資源の再発見や地域特性を活かした水文化の総合的な活用方策について、文献調査やワークショップなどを通じた具体的検討を行った。

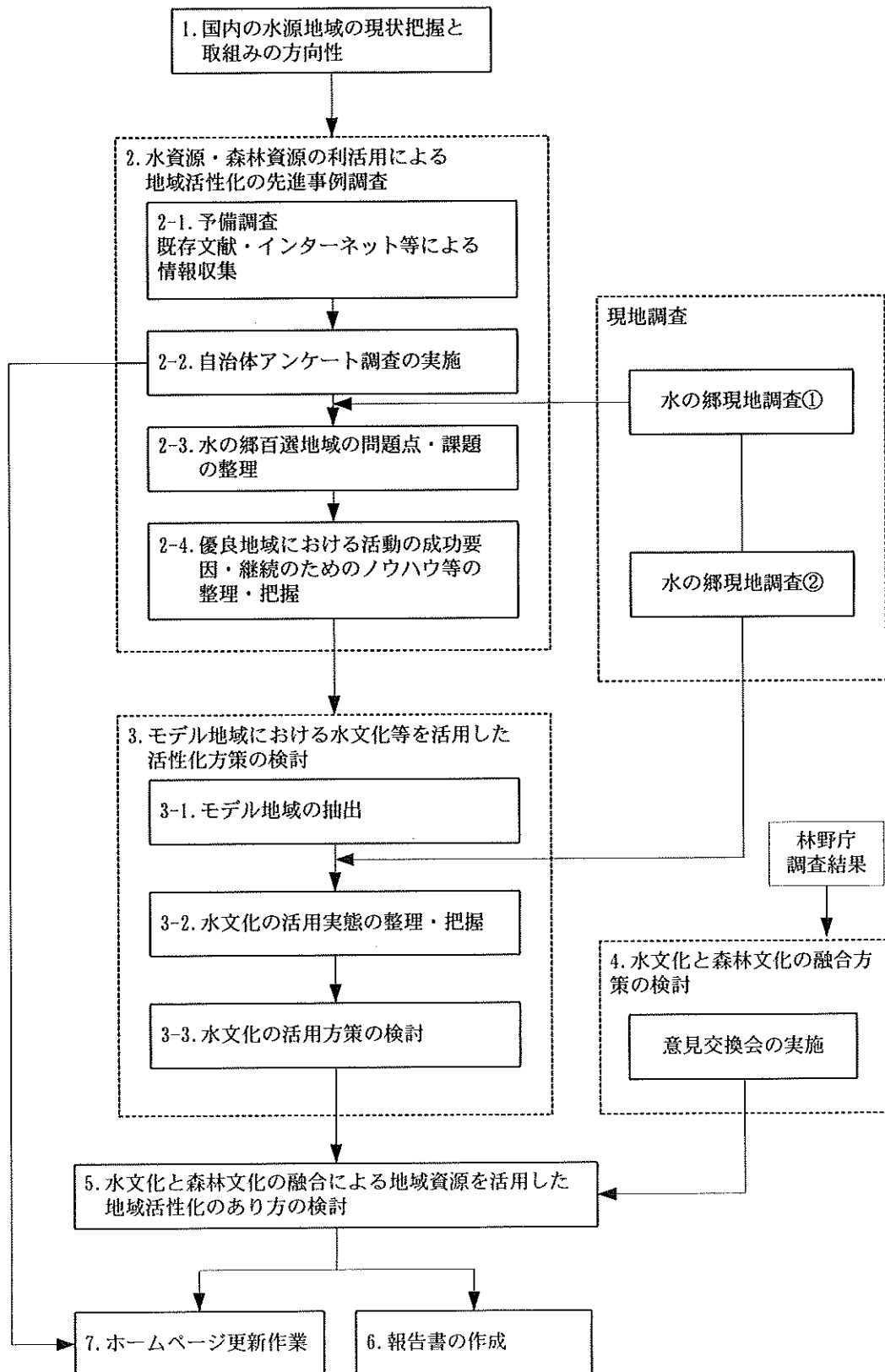
3) 水文化・森林文化融合による地域活性化のあり方の検討

水文化と森林文化の融合を図るための検討するにあたり、農林水産省と国土交通省の合同で調査に関する意見交換会を開催した。その意見交換会での有識者や研究者等の活発な議論の結果にもとづき、水文化と森林文化の融合による水源地域の活性化のあり方を明らかにするとともに、そのモデル手法について検討を行った。

4) 水の郷百選ホームページの更新

現在、国土交通省土地・水資源局水資源部にアップされている水の郷百選ホームページの更新を行った。

(2) 調査フロー



(3) 調査方法

本調査は、各分野の有識者及び各調査対象市町村の協力のもと、進めた。各調査の検討体制は以下のとおりである。

- 1) 水文化活用による地域活性化事例調査
水の郷百選認定 115 市町村（アンケート調査への協力）
- 2) モデル地域における水文化等を活用した活性化方策の検討調査
 - ① 福島県只見町
講師： 早稲田大学教育学部 教授 宮口 侗她
株式会社総合市場研究所 代表取締役 渡辺 均
 - ② 京都府美山町
講師： 大阪産業大学人文環境学部 教授 森下 郁子
- 3) 水文化・森林文化の融合による地域活性化のあり方の検討
意見交換会は以下のメンバーで実施した。

表 2 意見交換会参加者名簿（有識者のみ）

(順不同・敬称略)

氏 名	所 属	担当調査	
		水文化 国土交通省	森林文化 林野庁
筒井 迪夫	東京大学 名誉教授		○
宮口 侗她	早稲田大学教育学部 教授	○	

表 3 参加者名簿（事務局）

(順不同・敬称略)

氏 名	所 属	担当調査	
		水文化 国土交通省	森林文化 林野庁
興梠 克久	財団法人 林政総合調査研究所 研究員		○
松野 薫	財団法人 林政総合調査研究所 客員研究員		○
米田 安範	財団法人 水利科学研究所 研究員		○
木田 悟	財団法人 日本システム開発研究所 研究部 国土計画研究室長	○	意見交換会 事務局
大塚 亮一	財団法人 日本システム開発研究所 研究部 国土計画研究室 研究員	○	

表4 参加者名簿（オブザーバー）

（順不同・敬称略）

氏名	所属	担当調査	
		水文化 国土交通省	森林文化 林野庁
崎野 健輔	林野庁経営課 特用林産対策室 特用林産企画班担当課長補佐		○
永野 徹	林野庁経営課 特用林産対策室 需要開発係長		○
箕輪 富男	林野庁治山課 水源地治山対策室 水源地治山企画班担当課長補佐		○
宮川 勇二	国土交通省河川局 河川環境課流水管理室 企画専門官	○	
三宅 和志	国土交通省河川局 河川環境課流水管理室 流水計画係長	○	
松下 英之	国土交通省土地・水資源局 水資源部 水源地域対策課長補佐	○	